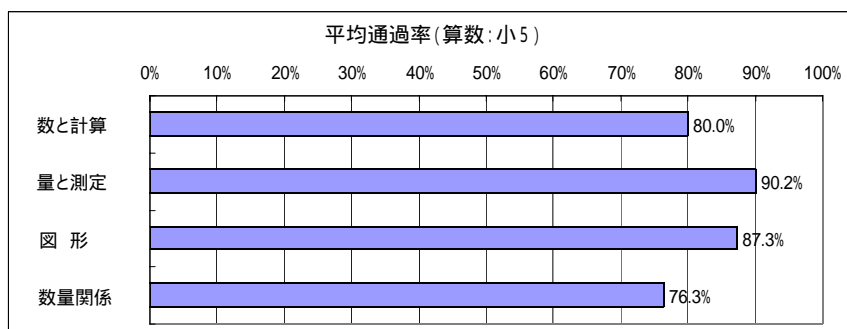


(3) 算数・数学  
ア 内容・領域

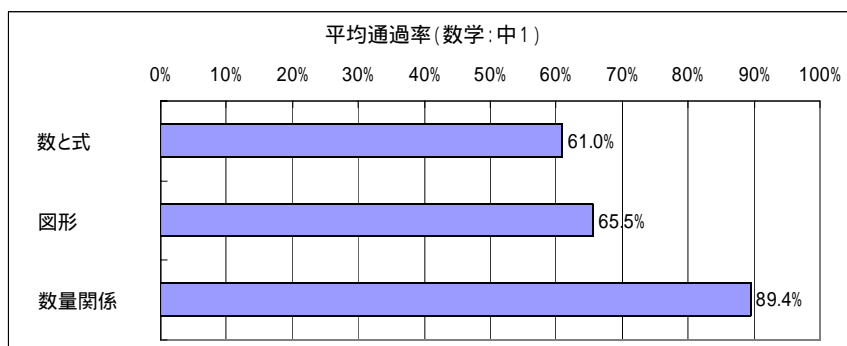
(ア) 小学校第5学年

内容・領域	平均通過率
数と計算	80.0%
量と測定	90.2%
図形	87.3%
数量関係	76.3%



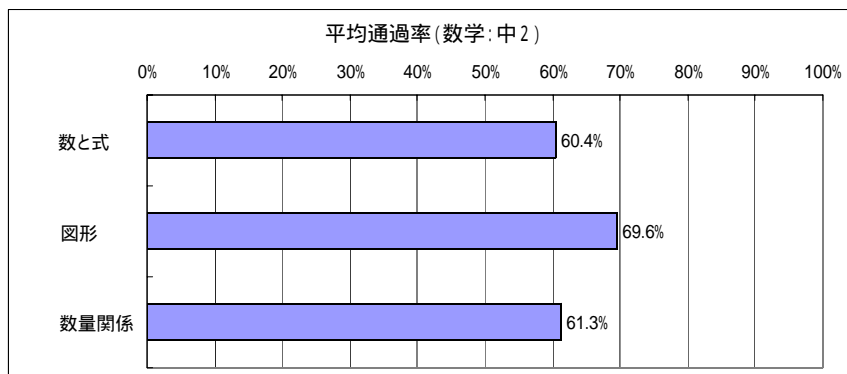
(イ) 中学校第1学年

内容・領域	平均通過率
数と式	61.0%
図形	65.5%
数量関係	89.4%



(ウ) 中学校第2学年

内容・領域	平均通過率
数と式	60.4%
図形	69.6%
数量関係	61.3%



小学校は全内容・領域とも75%を超える平均通過率である。「量と測定」は、「平行四辺形」と「三角形」の求積問題であったが、90%を超える平均通過率で定着度が高いと言える。「数量関係」では折れ線グラフの変化を読み取る問題で平均通過率がやや低かった。

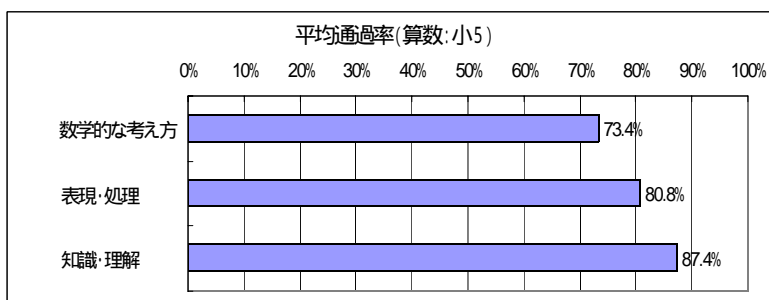
中学校では、第1学年の「数量関係」が約89%の平均通過率で高い値を示し、小学校での学習内容が確実に定着していると考えられる。

しかしながら、小学校と比べてどの内容・領域も平均通過率が15%前後低いことから、算数・数学の教科の特性である系統性を踏まえた学習指導を丁寧に行うとともに、個別指導を実施したり、宿題や課題を適切に与えるなどの工夫を図る必要がある。

## イ 観点別

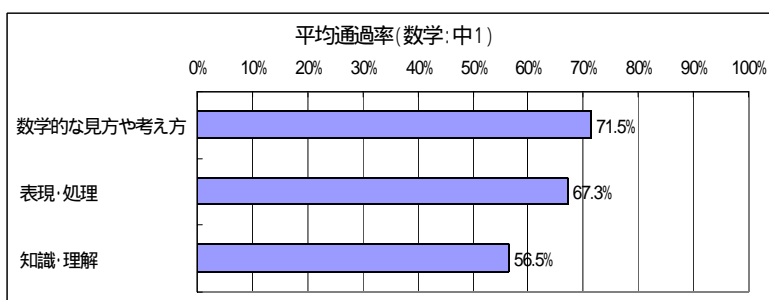
### (ア) 小学校第5学年

観 点	平均通過率
数学的な考え方	73.4%
表現・処理	80.8%
知識・理解	87.4%



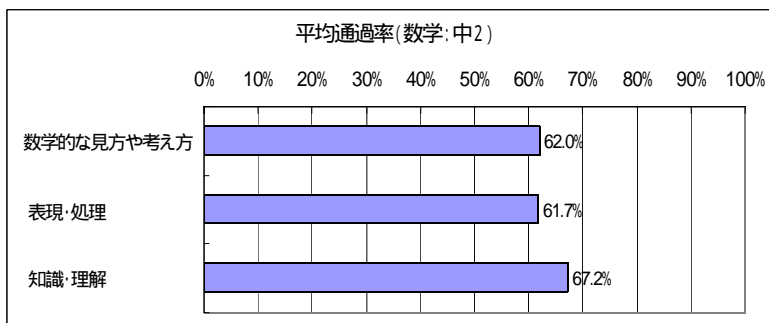
### (イ) 中学校第1学年

観 点	平均通過率
数学的な見方や考え方	71.5%
表現・処理	67.3%
知識・理解	56.5%



### (ウ) 中学校第2学年

観 点	平均通過率
数学的な見方や考え方	62.0%
表現・処理	61.7%
知識・理解	67.2%



小学校は、各観点とも平均通過率が70%を超えており、知識・理解については90%近い平均通過率である。数学的な考え方も約73%で概ね良好である。今後、これまで以上に算数的活動に取り組みながら、数量や図形についての意味を理解させ、考える力を高めていく指導の充実を図りたい。

中学校では、小学校に比べて各観点とも平均通過率が低くなっている。

全体的には、第2学年の平均通過率が第1学年のそれより低くなっているため、生徒のつまづきを十分に検討し、学習指導方法の工夫・改善を図るとともに、個別指導等を充実させていく必要がある。